

「狭い戸口から入れ」

2015年09月17日

ルカによる福音書 13 章 22 節～30 節。イエスは町や村を巡って教えながら、エルサレムへ向かって進んでおられた。すると、「主よ、救われる者は少ないのでしょうか」と言う人がいた。イエスは一同に言われた。「狭い戸口から入るように努めなさい。言っておくが、入ろうとしても入れない人が多いのだ。家の主人が立ち上がって、戸を閉めてしまってからでは、あなたがたが外に立って戸をたたき、『御主人様、開けてください』と言っても、『お前たちがどこの者か知らない』という答えが返ってくるだけである。そのとき、あなたがたは、『御一緒に食べたり飲んだりしましたし、また、わたしたちの広場でお教えを受けたのです』と言いだすだろう。しかし主人は、『お前たちがどこの者か知らない。不義を行う者ども、皆わたしから立ち去れ』と言うだろう。あなたがたは、アブラハム、イサク、ヤコブやすべての預言者たちが神の国に入っているのに、自分は外に投げ出されることになり、そこで泣きわめいて歯ぎしりする。そして人々は、東から西から、また南から北から来て、神の国で宴会の席に着く。そこでは、後の人で先になる者があり、先の人で後になる者もある。」

主イエスは十字架の死を決意してガリラヤからエルサレムに向かわれ、途中、町や村を巡り、教えながら進まれた。すると、ある人が「主よ、救われる者は少ないのでしょうか」と問うてきた。主イエスは「狭い戸口から入るように努めなさい。言っておくが、入ろうとしても入れない人が多いのだ」と答えられた。マタイ福音書 7 章 13 節、14 節に「狭い門から入りなさい。滅びに通じる門は広く、その道も広々として、そこから入る者が多い。しかし、命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見いだす者は少ない」と書かれている。主イエスは命に至る戸口は狭いが、その狭い戸口から入るように努めなさいと勧め、しかし、入ろうとしても入れない人が多いと警告している。そして、譬えを語られた。主人が立ち上がり、戸を閉めた。そこへ、外から来た者たちが「ご主人様、開けてください」と戸をたたいた。すると「お前たちがどこの者か知らない」という答えが返ってきた。外に立っていた者たちは「御一緒に食べたり飲んだりしましたし、また、わたしたちの広場でお教えを受けたのです」と、親しくしていたと言う。しかし主人は「お前たちがどこの者か知らない。不義を行う者ども、皆わたしから立ち去れ」と答える。アブラハム、イサク、ヤコブなどの族長たち、また全ての預言者たちは神の国の宴会に招かれ、神との供食に与っているが、お前たちは外に投げ出され、そこで泣きわめき、歯ぎしりすることになる。更に、東から西から、また南から北から来た人々は宴会の席に易々と着くが、お前たちは中に入ることはできない過酷な拒絶に遭うと語っている。

拒絶された人々は、「わたしたちの広場」と言っているように、主イエスの言葉を耳で聞いても、心で聞こうとしなかった者たちで、宗教的権威を振りかざしたファリサイ派の人々を指している。最後の「そこでは、後の人で先になる者があり、先の人で後になる者もある」という言葉が鍵であろう。「後の人」とは差別と抑圧に捨て置かれた人々で、「先の人」とは力を誇り、民衆を支配した権力者たちである。主イエスは、この「後と先」が逆転すると語られたのである。外に投げ出され、泣きわめいて歯ぎしりすると厳しく拒絶する譬えに少なからず戸惑が、民衆は主イエスの言葉に「あなた方こそが神の国に入る」と聞いて、喜んだに違いない。